



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014 年度からスタートし、5年目を迎えました。

連続講座レポート

第4回 武蔵野台地の水のみちをたどる

～神田川、仙川、玉川上水と千川上水



武蔵野台地に降った雨は、どこに流れていくのでしょうか。現代の水道施設が普及する前、江戸・東京を支えた上水は、どのように引かれたのでしょうか。水と暮らし、歴史、そして地形には深い関わりがあります。10月13日（土）、市内を3つのコースに分かれて歩き、市内の水の流れとその特色を探りました。

A:千川上水コース 案内人：水の学校サポーター 丹羽さん

玉川上水・千川上水は江戸の飲み水として作られた水道です。千川上水は玉川上水から引かれている分水で、今回は取水口から吉祥寺橋の西東京市の境までを散策しました。

千川上水は他市との境界線にありながら武蔵野市が管理していますが、管轄するのは東京都水道局です。玉川上水より人気が薄いようですが、みんなで見どころをチェックしながら歩きました。

スタート地点の取水口から武蔵野大学近くまでは用水の近くに入ることができませんが、それ以降は川沿いに沿って歩くことができます。管理状況は非常に良く歩きやすく、また、用水も浅く流れも緩やかです。沿岸も整備されて鯉がたくさんいて近くに見ることができました。途中、文字庚申塔や石橋供養塔・また井口家のオオケヤキを遠くで見て創作園（ハーブ専門の市の公園）を見た後、都立武蔵野中央公園で昼食を取りながら参加者から中島飛行機の後地の昔話を色々話してもらいました。その後コースに戻り陸上競技場を廻り市役所へ戻りました。

参加者からは、橋の名前や地名の由来についての話題がありました。最近いろいろな講演会で武蔵野・上水の歴史を聞いていますが、まとめきれず、もう少し、調べて役に立つことを説明したかったと思いました。



B:仙川コース

案内人：水の学校サポーター 良島さん

仙川コースでは、「整備計画（仙川リメイク）」が完了したとされる桜堤地区と、未整備の境地区の流域を対比して見る事ができました。

桜堤地区は川だけの整備ではなく、隣接する公園や緑地と一体化した水環境を創り出していました。但し、当日（土曜日）は流水（東京都境浄水場からの洗砂水）が無かった為か、「これが一級河川？」との、疑問の声も聞かれました。

一方、境地区の仙川は三面コンクリート張りの「枯れ川」で、水路は雑草が生い茂り、隣接する公園なども隔離された状態です。仙川リメイクはどうなっているのでしょうか？

武蔵野市内を流れる「唯一の自然の川」を活かして、「親水公園ライン」など、新しい環境を創り出すことを提案したいです。

